

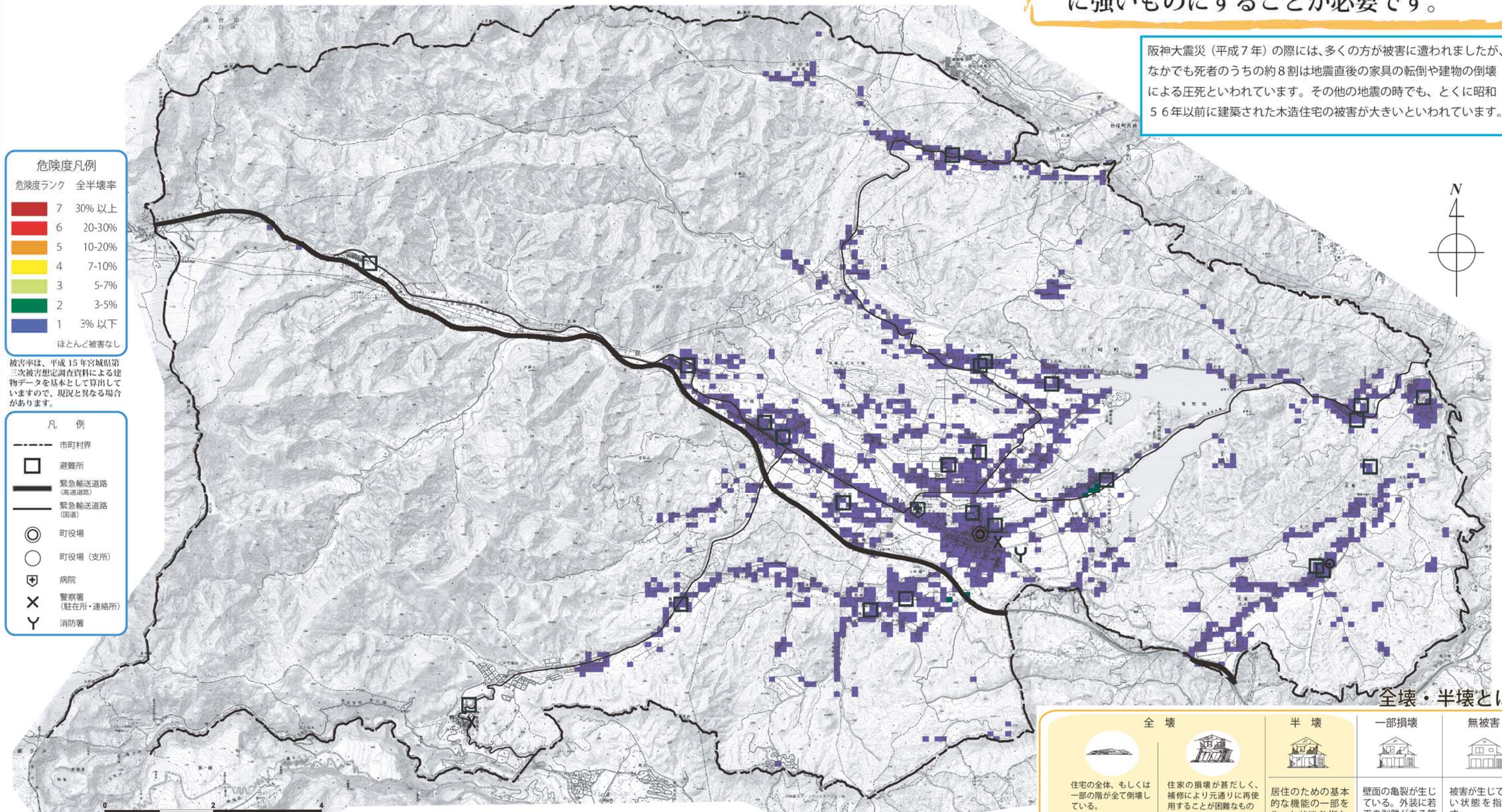
川崎町地震防災マップ

②地域の危険度マップ（宮城県沖地震（単独型）の場合）

- この揺れやすさマップは、揺れやすさマップ（宮城県沖地震（単独型））に示される揺れがあった場合、川崎町内の木造建物が全半壊に相当する建物がどの程度発生するかを、すべての建物に対する割合ごとにランク付けて、約100メートル四方の区画ごとに表したものです。
- この地震は、平均すると37年に一度、1978年の宮城県沖地震と同様の場所と規模で同じように繰り返り起きていると考えられているものです。今後30年間の発生確率は99%といわれています。マグニチュード7.6を想定しています。
- このマップは、皆様が日頃から地震の災害に備えに活用していただくためのマップです。また、住宅などの耐震点検や耐震改修、または、リフォームなどの改築のときにも参考にしてください。

地震の際に建物の被害によって人命が失われたり、ケガをしたりする人を少しでも少なくするためには、まず建物を地震に強いものにすることが必要です。

阪神大震災（平成7年）の際には、多くの方が被害に遭われましたが、なかでも死者のうちの約8割は地震直後の家具の転倒や建物の倒壊による圧死といわれています。その他の地震の時でも、とくに昭和56年以前に建築された木造住宅の被害が大きいといわれています。



危険度凡例

危険度ランク	全半壊率
7	30% 以上
6	20-30%
5	10-20%
4	7-10%
3	5-7%
2	3-5%
1	3% 以下

ほとんど被害なし

被害率は、平成15年宮城県第三次被害想定調査資料による建物データを基本として算出していますので、現況と異なる場合があります。

凡例

---	市町村界
□	避難所
—	緊急輸送道路 (高速道路)
—	緊急輸送道路 (国道)
◎	町役場
○	町役場 (支所)
+	病院
X	警察署 (駐在所・連絡所)
Y	消防署

全壊・半壊とは？

全壊	半壊	一部損壊	無被害
住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊している。	住宅の損壊が甚だしく、補修により元通りに再使用することが困難なもの	居住のための基本的な機能の一部を失った状態を指します。	被害が生じていない状態を指します。
居住のための基本的な機能を失った状態を指します。	居住のための基本的な機能の一部を失った状態を指します。	壁面の亀裂が生じている。外装に若干の剥離がある等の状態を指します。	

このマップの図例には、川崎町管内図（平成18年度作成）を利用しています。

このマップについてのお問合せ先： 川崎町建設水道課 TEL 84-2111(代表)